

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

科学技術部会長 中島 稔
環境技術委員長 南川 秀樹
両団体執行理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第382回)

日時 令和5年2月21日(火)午後1時半～4時
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第7会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付協のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第7会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、環境問題について、昨今想うこと

挨拶 南川秀樹環境技術委員長

2、排ガスの高効率浄化技術

解説 長澤剛東京工業大学工学院システム制御系助教

3、『環境技術関連ニュース NO.214』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る令和4年12月20日開催の第381回環境技術委員会は、南川秀樹委員長が議長を務め行われました。はじめに、南川秀樹委員長より、開会挨拶がありました。COP27では、気候変動による被害を受けた途上国に対する支援が討議された。懸案は、米はトランプ再選となると再び脱退の恐れがあり、資金拠出の確実性に問題がある。中国は発展途上国であるから我々は補償を受ける側と主張してくることであった。結局、気候変動は先進国の法的責任ではなく、来年のCOPに向け、どこが資金を拠出し、どこが補償を受ける対象かを継続討議することとなった。削減目標は1.5℃を維持することとなった。そして、CO₂に次ぐ温室効果を持つメタンの削減目標をアメリカ主導で初めて設定。30年までに3分の1削減

する目標が定まった。今回の技術も、温室効果ガス削減に向けて有用なものとして期待している。

次に、清原淳平代表兼執行理事より、当日の講師・辻健東京大学大学院工学系研究科教授の経歴紹介がありました。これを受けて辻教授より、「CO₂地下貯留監視技術」と題して解説がありました。CO₂の地下貯留は、岩石化しやすい性質を生かしたものである。岩石の隙間にCO₂を埋め込むのだが、800mより深いところに埋めると、超臨界を起こして堆積が小さくなる。埋められたCO₂は時間が立てば炭酸泉となり、やがて岩石に付着する。岩石に付着するまでの時間は昔1千年かかるといわれていたが、今は場所によっては2年で済むとの実験結果がある。問題はコストで、今は1t当たり8千円～1万1千円かかっている。これを2030年の事業化開始までに5000円台まで下げるためにはどうするか。膜を使ってCO₂を回収する方法があるが、高濃度回収するのに膜を何回も使う必要があり、それだけ電気代がかかる。バイオエネルギーを利用する方法もある。もう一つ重要なのが、CO₂の大気中への漏洩と地震を防ぐためのモニタリングである。これまでは繰り返し地震探査することで行ってきたが、コスト高の上不連続で確実性に欠ける。そこで、小型の進言装置を活用することとした。60kmのケーブルに10m間隔で小型の地震計を取り付ければ、継続的な探査が可能になる。

次に、中島稔委員長より『環境技術関連ニュースNo.213』の解説がありました。今回は、○政府のカーボンニュートラル宣言を受け、各企業でもCO₂排出0を目指す取り組みが進んでいる。その一部を紹介。○COP27閉幕。先進国は気温上昇1.5℃目標の深堀を求めたが、途上国は支援が先だとして紛糾した。基金創設でまとまったが、実効性はどうか。○日本の大人で環境問題に関心があるのは25%と先進国最低とのアンケート結果。○小型モジュール炉原発がCOPで注目を集める。高温ガス炉なら日本も技術面では優位に立っているが。○排気ガスを浄化する触媒。等々が紹介され、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、2月21日(火)の環境技術委員会(衆1-地下1F、第7会議室)に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp